

各委員会行政調査報告

各委員会が実施した先進地への行政調査について報告いたします。

観光建設公営企業委員会

調査日程 令和7年10月21日～23日

調査先及び調査内容

〈大分県別府市〉「ライドシェア導入背景と概要について」

別府市のコロナ禍回復後の公共交通状況は、バスの減便や廃止、タクシー台数の減少などにより稼働台数が回復していない状況であった。このため無料ナイトバスの運行、日本版ライドシェアの導入、湯けむりライドシェアGLOBALの実証運行開始など多くの公共交通施策が講じられた。また、ライドシェア導入にあたっては市長自らがタクシー協会や九州運輸局への説明などを行い、提案から実施まで迅速に対応した。このようなことから公共交通の不足を補うため、ライドシェアの導入を含むさまざまな対策を進めており、地域住民のみならず観光需要の増加にも対応することを目指している。本市も公共交通状況においては、運転手不足など同様の課題を抱えており、今後の観光推進の参考としたい。

〈福岡県福岡市〉「宿泊税の使途及び活用事例について」

福岡市は、令和2年4月1日から宿泊税を導入し、この税収は主に観光関連の施策に使われ、観光業の発展と市民生活の向上を両立させることを目的としている。観光業の振興に関する施策はもとより、市民生活の向上のため、公共交通機関のバリアフリー化、エレベーター・エスカレーターの増設など、地元住民にも便利となる交通インフラの整備に使用されている。宿泊税を活用した事業の評価は、宿泊事業者を対象に実施したアンケートを通じて収集しており、評価の高い施策についてはさらに強化している。また、年度ごとに宿泊税の活用事例を掲載した事業報告書を作成し、収入や決算などの情報を公開している。事業内容については、写真を交え分かりやすく掲載しており、その内容はホームページでも広く公開している。今後、本市においても観光と市民生活の双方に資する宿泊税の使途を参考にしたい。



福岡市にて

総務福祉教育委員会

調査日程 令和7年10月22日～24日

調査先及び調査内容

〈大阪府四條畷市〉「行政DX（書かない窓口）導入背景と概要について」

四條畷市は、持続可能な行政運営を目指し行政DXを積極的に推進しており、多様なデジタル技術を活用し、業務の効率化と市民サービスの向上を図っている。令和6年度には全国で約8年ぶりとなる電子投票を導入したほか、市民と直接関わる窓口業務の効率化を図るため「書かない窓口」を導入しており、来庁者の本人確認や聞き取った内容は、職員とともにタブレットを通してシステムに入力し、申請書を自動作成する仕組みで運用している。書かない窓口の導入により、データ等の連携・活用・取得、職員の確認・補記の軽減、申請書類のデータ化などのメリットがある一方、窓口職員の人員体制が依然として逼迫していることや、申請書は印刷しており、直接的な紙削減等には至っていないなどのデメリットも挙げられる。行政のDX化は今後さらに進んでいくことが予想されることから、本市においても非常に参考となる先進事例であった。

〈兵庫県高砂市〉「広域ごみ処理事業の検討経緯と運営状況について」

高砂市は、近隣2市2町（加古川市、高砂市、稲美町、播磨町）と広域によるごみ処理事業を実施している。高砂市が事業主体となり各市町から事務を受託する運営事業とし、建設費や維持管理費の分担、処理能力の集約を実現した。ごみ処理施設「東播磨海広域クリーンセンター（愛称：エコクリーンピアはりま）」は平成29年に建設を開始し、令和4年6月に稼働を開始し、最新の焼却技術の導入による公害防止対策の強化や、焼却熱を利用した発電を行うなど、環境負荷の低減と資源の有効利用を進める循環型社会の構築を地域全体で目指している。ごみ処理事業の広域化や施設建て替えについては本市にとって重要な課題であることから、今後目指すべき広域化の方向性や、実際の導入・運用方法について非常に有意義な視察となった。今後も引き続き検討し、本市の発展に尽力していく。



高砂市にて